

あげてはいけない身近な食べ物

1. 玉ねぎ



「犬や猫に玉ねぎを与えてはいけない」ことは、多くの飼い主さんがご存知と思います。玉ねぎだけではなく、長ネギ、ニンニク、ニラ、ラッキョウなども与えてはいけません。

ネギ類に含まれているアリルプロピルジスルフィドという物質が原因で赤血球が壊されるため、貧血を起し、血尿(血色素尿)がでることがあります。玉ねぎを体重 1 kgあたり 5~10g 以上食べると危ないとの報告もあります。体質の違いで中毒をおこしやすい場合もありますので、ご注意ください。



すき焼きの残り汁やみそ汁などは成分が濃縮されているため、少量でもネギ成分が多く含まれており、中毒症状が見られることがあります。ハンバーグやシチューなどを与えるのも危険です。

2. チョコレート



カカオに含まれているテオブロミンという物質が原因です。したがってチョコレートに限らずカカオが含まれているものは与えてはいけません。

症状は下痢や嘔吐のほか、異常興奮やケイレンなどさまざまです。犬や猫は人間と違いテオブロミンを効率よく排除できず、非常に長く体に残る(血液中の量が半分になるのに約 17.5 時間かかる)ため、一度に食べなくても何度も繰り返し食べると症状が出る可能性があります(蓄積性)。

体重 1 kgあたりテオブロミン 0.1~0.2g 程度で中毒を起こすとみられるため、小型犬が板チョコ 1 枚(50g 程度)を食べてしまうと問題が出る可能性があります。極端に心配する必要はありませんが、チョコレートケーキやチョコチップクッキーなどを与えないよう、注意してください。

3. キシリトール



虫歯予防効果があるため、歯磨き粉やガムなど多くの製品に含まれるキシリトールは人間には有用ですが、犬に重い中毒を引き起こします。

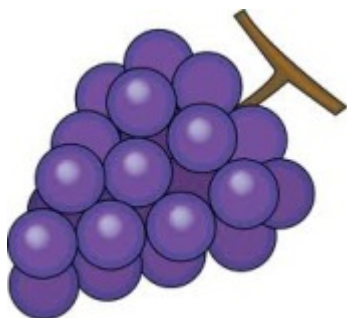
人間や動物は食べたものを消化吸収し、ブドウ糖(=血糖)として体内に取り込みます。この際、血糖値を下げる働きをするのが膵臓から分泌されるインシュリンというホルモンです。人間はキシリトールを食べてもインシュリンは放出されません。しかし、犬ではキシリトールがインシュリンを放出させる力はとても強く、血糖値が著しく低下します。そのため、低血糖による意識の低下、脱力、昏睡、ケイレンや、肝機能障害による黄疸がみられる場合もあります。

中毒を起こす量や条件など不明な点もありますが、体重 10kg の犬が 1g のキシリトールを食べて低血糖を起し、治療が必要になった報告もあります。特に空腹時にキシリトールを食べてしまうと危険性は高まります。

中毒症状はキシリトールの誤食後 30 分~12 時間以内に出ることが多いので、意識の低下、脱力、昏睡、ケイレン等があったらすぐに診察を受けて下さい。

4. ブドウ

原因となる物質は不明です。ブドウに含まれている成分なのか、ブドウに付着したカビ毒や農薬等が原因なのかわかっていませんが、生ブドウ、干しブドウ(レーズン)ともに中毒を起こします。



誤食後早ければ 5~6 時間後ぐらいから嘔吐、下痢、食欲不振、元気消失がみられることがあります。重症例では、数日後に腎不全のため長期の治療が必要となり、死亡に至ることもあります。

中毒量は不明ですが、体重 1kg あたり生ブドウで 20~30g、干しブドウでは 10~30g 以上ではないかと考えられています。干しブドウは水分が少なく少量で中毒量になるため、レーズンパンも注意が必要です。

実際には個体差がありますが、3.5kg の犬が約 70g (デラウェア 1 房約 150g の半分程度) を食べて死亡した報告もありますし、多量に食べても異常が見られなかった報告もあります。



5. アボカド

アボカドに含まれるペルシンという物質が原因です。アボカドの葉、樹皮、種だけではなく、果実の部分(通常人間が食べる部分)にも有毒成分が含まれます。すべての品種のアボカドに毒性があるわけではありませんが、人間以外の動物に食べさせてはいけません。



嘔吐、下痢、呼吸困難や全身浮腫などが起こり、死亡することもあります。中毒量は不明ですが、少量でも中毒症状が出る可能性があります。

感受性が高く、体の小さいハムスター、ウサギ、鳥などでは少し与えただけでも死亡する可能性がありますので、十分注意が必要です。

おまけ (院長の個人的見解です)

「あげてはいけない身近な食べ物」として情報を載せました。

しかし、私は『食べてはいけないものを与えないように注意しながら、ペットにいろいろなものを食べさせる』のではなく、『**決まったもの以外はあげない**』ように心がけてほしいと願っています。食べ物はペットが健康なときだけではなく、病気になったときの治療・維持にとっても重要なポイントとなるからです。

ここに載せた情報は万が一、誤食した(意図せず食べてしまった)場合にお役に立てれば幸いです。